

教育センター通信

ほ ど
火床の火の心を紡ぐ

第8号(通算 124 号)
令和6年12月19日

三条市教育委員会
教育センター発行

小中一貫教育
トップページ



授業の奥深さ

学校教育課 指導主事 武石 和仁

今年度、多くの先生方の授業を参観させていただく中で、次の2つの言葉に出会いました。

「その当時の家のことは、◎(二重丸)にすればいいんじゃないの。今度の。」

あるクラスの社会科で、子どもたちは、戦時中に三条へ疎開した児童と現在の三条の児童の暮らしを比べて話し合っていました。すると、戦時中の児童が過ごしていた家の様子に関心が向かい、「分からなさ」として表現し始めました。その際、ある子が何気なく、いつもどおりの口調で発した一言です。

令和5年に、三条市教育委員会は、授業づくりのヒントとして「三条市授業スタンダード(総編集版)」を発行しました。この中では、子どもの問題意識を基に表現され、学級で共有された「学習問題◎」が、子どもを大切に授業の中核として位置付けられています。

まさに「三条市授業スタンダード」を具現したこの発言の背景には、子どもの問題意識を基に、教師が共に考え合う丁寧な授業の連続があったことでしょう。本当に嬉しい一言でした。

「Aさんから〇〇という意見を言ってもらって、今まで気づかなかった新しい発見ができました。」

あるクラスの防災教育の授業での一言でした。ある子が自分なりに考えた水害時の避難の仕方について、参観の教師(大人)に向かって直接伝え、それに対して大人なりの考えを伝え返す授業でした。インプットした知識を基に自分の考えを創り上げ、アウトプットすることだけでも学んでいる姿と言えます。さらに、アウトカム(＝自分なりの成果)の発信もする姿が見られました。対話を通して考え合う授業を創り上げることで、確実に子どもの学びを深められると強く感じました。

学習院大学の秋田喜代美教授は、「ただ1つの特定の指導法で(授業は)改善できるわけではない。そこに授業の奥深さがある。」とされ、学校がチームとなってこの探究を進めることが最も重要であると言われています。「子どもを伸ばしたい」一心で、全職員が協働的に「奥深い授業」に取り組んでいる三条市立学校の先生方に改めて敬意を表するとともに、更なる研鑽をお願いいたします。

学園紹介

三条学園 (いじめ見逃しゼロスクール集会・学園運営協議会)

10月17日(木)に三条学園「いじめ見逃しゼロスクール集会」を実施しました。今年度も「いじめ見逃しゼロ県民運動」個人サポーターの西條詩菜様を講師にお迎えし、「傾聴で豊かな人間関係を」をテーマに御講演いただきました。その後、小中学生のグループで「適切なコミュニケーション」について意見交換し、大切なキーワードを共有しました。

また、11月1日(金)に学園運営協議会を行いました。今回は日中に開催し、学園運営協議会委員の皆様は第三中学校の授業を参観をしていただきました。協議会では学園行事に関して生徒と意見交換をする機会を設けました。また、あいさつ標語の最優秀賞を決めました。



いじめ見逃しゼロスクール集会 10/17 (第三中)



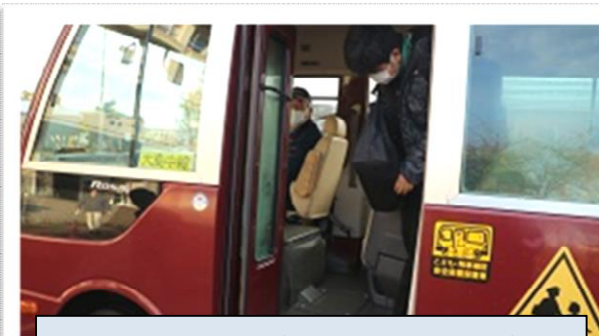
学園運営協議会 11/1 (第三中)

三条おおじま学園 (おおじまおはよう Day)

12月2日(月)に中学校と小学校の連帯感を高めることを目的に、「おおじまおはよう Day」を行いました。

今回は3回目で、冬期間お世話になるスクールバスの運転手さんに感謝の気持ちを伝えられるように、登校バス内であいさつ運動を行いました。生徒は、バスに乗り込む際、元気にあいさつを行っていました。上須頃線の登校バスは、小学生と中学生が同乗します。お互い気持ちのいいあいさつで登校バスを使ってもらいたいです。

大島中学校の玄関では、徒歩通学の生徒があいさつ運動を行いました。元気のいいあいさつで友達を迎え入れました。



あいさつ運動 12/2 (上須頃線登校バス)



あいさつ運動 12/2 (大島中)

さかえ学園（いじめ見逃しゼロスクール集会）

11月20日(水)に栄中央小学校・栄北小学校・大面小学校の6年生と栄中学校の2年生が参加し、栄中学校体育館で「いじめ見逃しゼロスクール集会」を行いました。

タレントの今井美穂さんから「自分らしく、幸せに生きる」をテーマに御講演をいただき、その後、小学生と中学生でグループを作り、「自分も周りの人も大切にするために、自分たちにできること」をテーマに話し合いました。各小中学校の運営協議会委員の方からも話し合いに加わっていただきました。講演や話し合いを通して、小学生は、中学生の話し合いをリードする姿や発言内容に、憧れを抱く子が多かったようです。また、参加した多くの児童生徒が、「相手を思いやる」「自分らしさを大切にする」など、いじめを起こさないために大切なことを学ぶことができました。



さかえ学園（いじめ見逃しゼロスクール集会） 11/20 （栄中）

大崎学園（絆づくり集会・双華（生徒）会選挙立会演説会）

絆づくり集会は、「いじめ見逃しゼロスクール集会」の大崎学園バージョンです。1年生から9年生までの縦割り仲良し班で、大崎学園ゆるキャラ「バリ山さん」の貼り絵制作をしました。後期生のリーダーシップを前期生が感じ、1・2年生の笑顔に後期生も笑顔になりました。

双華（生徒）会選挙立会演説会には、5年生以上が参加します。学園をまとめていこうとする次期会長・副会長候補の思いや熱意を直接感じることができるのは、大崎学園前期生の特権です。ディスカッションの場面では、フロアからの鋭い質問とそれに答える立候補者の熱弁に前期生は目を丸くしていました。前期生もいるので、後期生の態度は自然と立派になります。



絆づくり集会 11/20



双華会（生徒会）選挙 11/27

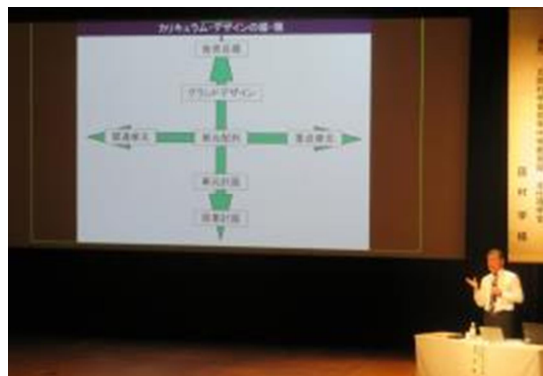
小中一貫教育新潟県連絡協議会

11月26日（火）実施

小中一貫教育新潟県連絡協議会は、三条市が事務局となり、県内の9市町村を中心に義務教育の資質向上及び小中一貫教育の推進を目的に活動しています。

11月26日（火）に胎内市産業文化館を会場に、総会と研修会を行いました。研修会には、オンラインで三条市を含め約70名、現地で約140名の方々から御参加いただきました。

研修会では、文部科学省初等中等教育局 主任視学官 田村様を講師にお招きし、『「主体的・対話的で深い学び」を改めて考える ～個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実～』を演題に、お話しいただきました。御講義では、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を小中一貫教育の観点から御指導いただきました。知の精緻化、自分の学びをコントロールするアウトプットの大切さなど、新たな視点を与えていただきました。また、「個別最適な学び」と「協働的な学び」のどちらにおいても、子どもの選択と教師の指導性発揮のバランスが重要であることを改めて考えさせられました。



授業の一層の改善を（授業力向上研修 Step 1・2）

授業力向上実践研修は、7月9日（火）の旭小学校研究授業を皮切りに11月22日（金）の須頃小学校研究授業まで、約5か月間に渡り合計46回の研究授業が行われました。今年度はプレ授業やオーダーメイド訪問（全体協議会）も数多く実施され、受講者や各校の研修に対する熱意が伝わってきました。校内での検討会や学習会、担当指導主事との個別相談を経て行われた本番の授業公開では、子どもと真剣に向き合い、熱心に授業に向かう受講者の姿が数多く見られました。研究授業を通して参観者も多くのことを学ぶことができました。

授業後は受講者と担当指導主事が授業を振り返り、成果と課題を共有することができました。また、オーダーメイド訪問を行った学校では、全体研究協議会を通して教職員の皆様とともによりよい授業について考えを深めることができました。

11月25日（月）から行われた第4回学習会では、受講者が実践のまとめについて、担当指導主事とオンライン等で相談しました。受講者はこの後2月末までの約3か月間、実践の成果と課題を教育研究論文や実践記録にまとめます。校内教職員の皆様からも一層の御指導と御支援をお願いします。



第4回学習会（オンライン）での個別相談



対面での熱の入った個別相談